

# かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ

所在地：南巨摩郡富士川町鵜沢771-2

TEL:0556-22-8154 FAX:0556-22-8144

HPでも御覧になれます。 <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

## 教育フォーラム

身延町総合文化会館で8月28日に開催された教育フォーラムの講演要旨を掲載します。

### 「発達障がい支援のポイント」

山梨県立大学 人間福祉学部 人間形成学科 准教授 田中 謙 氏



田中 謙 氏

理念経営：「支援者の価値観が教育実践にどう反映して、子どもたちにどう影響するか」という観点で話したい。「私達の社会、地域、学校の中で、障がいのある子どもたちが生活しにくいルール、文化、雰囲気を作りだしていないか」を見返すことが大切である。学校は科学的価値の伝承に重点を置くが、一番培って欲しいのは「勉強するって楽しい」という気持ちである。

#### 1 発達障がいの「理解」：「社会生活に支障がでてしまうこと」 = 「障がい」である。

障がい名は、自閉症、ADHD、LDなどと様々あるが、境界ははっきりせず、グレーゾーンがある。診断や認定はされていないが、その傾向があり助けが必要なケースがある。また、一つの特徴のみでなく、いくつかの特徴を併せ持つ場合が多い。音や匂いに過敏であったり、不器用で時間がかかったり、対人関係などでの「困り感」を抱えていたりする。それに気づいて対策を取ることが必要となる。授業の指導においては、基本的には「見通し」がある方が活動しやすく、サプライズよりも本時のねらいを予め伝えられる方が安心して学べる。また、決まり事(ルーティーン)がある状況での突然の変化・変更は苦手だが、好きな分野であれば、新しいことに挑戦して能力を伸ばすのは得意である。人との交流に関しては、同年齢集団より異年齢集団の方が、「自分の立ち位置」や「上下関係」が分かりやすいので対応しやすい。

#### 2 あなたはどちらが得意でしょう？ 継次処理(左脳)と同時処理(右脳)

目的地に行くために、「行き方を順番に言葉で説明される継次処理」と、「地図上で目的地を示される同時処理」がある。誰でも2つの方法に関して得意・不得意はあるが、発達障がいの場合は得意、不得意の差が大きく、苦手な方で説明をされると理解が困難となってしまう。(次ページへ続く)。



### 峡南地区「子育て学習会」の御案内 「子どもの心を育てるコミュニケーション」(仮題) 山梨大学大学院 総合研究部 教育学域 教育学系 教授 栗田真司 先生

岐阜県生まれ、北海道で漁師、茨城で保育の経験の後、筑波大学教員、放送大学客員教員を経て現在、山梨大学大学院教授(教育学域)、臨床心理カウンセラー。生涯学習論、コミュニケーション心理学を研究。



2017年出版『子どもの心を育てるコミュニケーション』(学術研究出版)はYahoo教育書ランキングで1位!

◇日時 平成31年1月25日(金)午後7時~(受付 午後6時30分)

◇会場 身延町総合文化会館(身延町波木井407)

◇参加者 保・幼・小・中・高・支援学校の職員・保護者、主任児童委員、保健師、愛育会、地推協関係者、地域住民の皆様など、関心のある方は事前の申込みをお願いします。

◇申込み 1月17日(木)までに、電話、fax、メールで、担当まで。

◇申込先 山梨県教育庁 峡南教育事務所 地域教育支援担当 (片田・小林) tel:0556-22-8154  
(片田) [katada-rxbc@pref.yamanashi.lg.jp](mailto:katada-rxbc@pref.yamanashi.lg.jp) fax:0556-22-8144

LD（学習障害）で、学校での説明方法がその子に合っていない場合、別パターンで授業を受ける機会を与えるなどの配慮が必要である。（放課後補習、地域の人材活用による補習など）識字障がい（ディスラシア）の場合は、一人ひとりの見え方に応じて対策が必要となる。（鏡眼鏡、色付眼鏡、聴く教材、デジタル教科書の使用など）その子の「努力」ではなく適切な「環境調整」が必須である。

### 3 支援のポイント：・「合理的配慮」は一人ひとり異なる。

・支援者の「意識変容」が必要！現場で認められやすい価値観は「いい」「早い」「高い」「格好いい」等だが、価値観を多様化して、「丁寧」「独創的」「そのままでもいいね」（質的評価）「あなただけにしかできないね」（Only one 評価）「成長したね」（個人内評価）という評価を！

・リフレーミングで「気になる」点を「なおす」のではなく「長所」に転換！（多動→活動的、こだわりが強い→信念がある）また、「気になる」点が他の長所でカバーできないか考える。

### 4 実態把握を必要な配慮につなげるには・・・①支援者が「普通」という「偶像」を求めすぎない。

②長期的視野をもち個に応じた発達を目指す。③気づき寄り添う。感情的に怒らないで、論理的に話をする。ほめる。（適切に評価する）支援者の心身の健康は大切で、一人で抱えず複数で支援にあたる。

④自己肯定感（有能感）の発達を支援：「主体的行動」→「試行錯誤」→「評価（自・他）」を繰り返す。

⑤指導と評価の割合→ 幼児 「1：9」ありのままをほめる。 小学生「2：8」よくほめる。

中高生「3：7」ピンポイントで的確にほめる。

### 5 支援児がパニックになったときのために・・・ 「支援希求」：「助けて！」と言う力を養う

プライド、メンツにこだわり、助けてと言えず「暴言を吐く、逃げる、ごまかす、放棄する」等の場合がある。支援希求には自尊感情・自己管理能力の高さと勇気が要る。支援希求能力の向上が必要である。（会場は満員で、107名の参加者は熱心に田中先生の講演に聴き入っていました。）

## 市川中学校 第30回神明の花火大会 片付け・清掃作業ボランティア



佐藤紀征教育長



久保眞一町長

第30回の神明の花火大会の翌日、平成30年8月8日（火）の早朝6時から、花火大会の片付け及び清掃のボランティア活動が実施されました。このボランティア活動は今年で21回目となります。昨年度は20周年の節目に当たり、市川三郷町夏まつり実行委員会から表彰されました。

市川中学校は全校生徒一丸となって、このボランティア活動に、21年間にわたり取り組んできました。今年度は佐野一浩校長をはじめとする教職員と生徒合わせて188名が参加しました。開式セレモニーで、佐藤紀征教育長から開会のことば、久保眞一町長からあいさつをいただき、ロータリークラブ会長 依田洋澄氏からは市川中学校へ記念品が贈呈されました。主催である市川三郷町生活環境課の望月健環境衛生係長から、作業場所や注意事項の説明があり、実行委員長の市川三郷町商工会 秋山詔樹会長の閉会のことばのあと、熱中症対策として町から参加者にスポーツ飲料が配付されました。参加者は花火大会の会場である河川敷で、段ボールや缶・瓶を拾い、熱心に清掃活動に取り組みました。



佐野一浩校長



全参加者は661名で、町の職員196名と、16団体からの参加者465名です。集まったゴミは全部で約5t（前年比-10%）でした。主なものは可燃ゴミで約90%を占めています。清掃の後、富士川河川敷は元通り美しい景色となっていました。「清掃が終了して初めて祭りが成功！」を合い言葉に、生徒と一般の参加者が協力して行う素晴らしい取り組みでした。



## 身延高校「郷土料理教室」と食改さん



### 【身延町の食改さんが、身延高校で郷土料理実習】

身延町食生活改善推進委員会は平成17年に発足し、“私達の健康は私達の手で”をスローガンに地域の健康づくりに貢献しています。芦澤清美会長を含めて、会員数は66名です。身延高校での郷土料理実習を10月16日に実施しました。この事業は平成21年に開始し今年で10回目になります。目的は「健康な手作りの食生活」と「地産地消」の次世代への伝承です。メニューは、①あけぼの大豆枝豆ごはん、②煮干しだし具たくさん減塩味噌汁、③あけぼの大豆きなこあめです。2年生の家庭科選択の生徒23名は、興味と熱意を持って真剣に取り組みました。味噌汁の調理で、各班が自由に具材を選び分量を決める場面があり、具材の組み合わせと丁度良い分量に悩みつつ、話し合い、協力して完成させる姿が印象的でした。

### 《今回のメニューのレシピ1品を紹介》

①あけぼの大豆 枝豆ごはん ◎材料(4人分) お米 2合 枝豆(鞘から出した状態) 100g  
水 2合分よりやや少なめ 昆布 1枚 塩 小さじ半分 お酒 大さじ1

◎作り方 ①枝豆は塩湯でして、豆を鞘から出し、薄皮を取る。②少なめの水で米を浸透させ、昆布、塩、酒を加えて炊く。③炊いたら昆布を取り出して、①の豆を加え、混ぜ合わせて出来上がり!



## 身延高校 Open School 1日体験入学



鈴木克志校長

身延高校(鈴木克志校長)は8月25日(土)に学校説明会を開催しました。山梨県内外から、中学生92名、保護者・中学校教員68名の計160名の参加があり、学校説明、部活動体験、部活動見学が実施されました。

2年生の小森しもんさんと日吉陽己さんの進行でオープンスクールが始まりました。

全体会では校長先生のあいさつの冒頭で、来年度から導入される中高6年間の一貫した教育を通じて確かな学力を育む連携型中高一貫教育のお話がありました。

第1部では「キャリア教育」「入試」「卒業生の話」などがあり、中学生や保護者の皆さんは、メモをとりながら熱心に聞き入っていました。

第2部では、在校生が中心となり、学校生活について紹介しました。少人数制を生かした授業のことや学校行事のこと、部活動のことなど、動画等を使いながら、分かりやすく説明していました。

参加した中学生は、諸連絡・アンケート記入ののち、部活動見学や体験入部という形で練習に参加していました。先生方や先輩達から説明や指導を受けながら、充実した時を過ごすことができました。



全体会の様子



学校生活の紹介



ソフトボール部  
部活動の心得の講義中



陸上競技部との合同練習





山本英樹校長

## 峡南高校 学校説明会



峡南高校（山本英樹校長）は、8月25日（土）に学校説明会を開催し、中学3年生・保護者・中学校教員が参加しました。峡香文化創造館で行われた全体会で、山本校長から挨拶があり、「大正12年4月に開校した本校は、平成31年度に97周年を迎えます。これまでに地域に貢献する人材を1万名以上輩出してきました。今回は、少子化による学校再編を目前にし、時代の節目に立ち会う最後の峡南生の募集です。クラフト科の募集はなく、電子機械科と土木システム科の2学科の募集をします。少人数できめ細かい指導実践のある本校で、ぜひ充実した高校生活を過ごし、進路実現をして下さい。」と話されました。続く応援団と吹奏楽部によるアトラクションと、生徒会長からの学校行事の説明では、峡南高生が大活躍しました。続いて学校・学科・入試に関する詳細な説明がありました。

各学科実習体験では、各教室で2学科2テーマの実習が実施されました。実習内容は電気電子科はマニシングセンター加工（NC工作機器でプレートを加工）と電子回路（電子キット作成でハンダ付け技術と電子部品の基礎を学習）、土木システム科はトータルステーションによる測量（校舎内の土地・建物の距離・角度を測定）とコンクリート実験（強度測定）でした。様々な機材を使いこなすことが必要な工業高校ならではの専門的な授業に、中学生は真剣な態度で臨んでいました。



全体会の様子

実習体験の様子

## 市川富士見保育所 開園



8月17日（金）に市川富士見保育所の開園式が市川三郷町高田152-1の同所内のホールで開催されました。9時30分に、玄関にてオープニングセレモニーがあり、年長児がくす玉を割りました。続いて市川高校音楽部員が作詞作曲した園歌を、全園児と保護者の前で披露しました。

久保真一町長は挨拶で「統合前の市川保育所は築47年、富士見保育所は築42年で、老朽化し安全対策の必要性から新校舎が誕生しました。平成27年度から新園舎整備検討委員会を立ち上げ、敷地面積が両所の合計の2.7倍という広い園庭と駐車場を備えた保育所が完成しました。この新園で次代を担う子どもたちが、日々生きる力を育み、心身共に健やかに成長していくことを期待します。」と述べました。アトラクションでは青組園児の和太鼓演奏「やまびこ太鼓」に続き、全園児が市川高校音楽部と一緒に新園歌を歌いました。

園舎は太陽光発電設備を備え、木材を使った広い廊下と保育室、自然採光、空調方式などが工夫された環境に優しく安全・安心な施設です。全園児は113名、職員は20名でのスタートとなりました。



依田 奈保子 所長⇒

市川高校音楽部